

富士から世界へ、世界から富士へ。

# レバンテフジ静岡の挑戦

青葉通りと富士川滑空場を会場に「富士山サイクルロードレース2024」が来月開催されます。今月は、富士市に拠点を置くレバンテフジ静岡の代表である二戸康寛さんに話を聞いてみました。

## サイクルロードレースの魅力

まず競輪との違いですが、競輪はトラック競技で、サイクルロードレースはマラソンのような公道競技です。使用する自転車も異なり、競輪用にはブレーキとギヤがありません。通常のサイクルロードレースは、数十キロから二百キロに及ぶ長距離レースを指しますが、数キロの短いコースを繰り返し周回するクリテリウムや、峠を登り続けるヒルクライム等もあります。



レバンテフジ静岡代表の二戸康寛さん

公道競技は路面のコンディションや天候が常に一定でない為、選手のフィジカル要素と、知識や経験、さらにチーム戦における駆け引きで勝負が決まります。1チーム6人で出場する場合、エースの力を温存する為に、他の5名はアシスト役として風よけを担ったり、先行する選手を追いかけたりしながらエースをサポートします。そして、ここぞというタイミングでエースが勝負を仕掛けます。

選手の体力や自転車の性能だけでなく戦略や技術で勝敗が決まり、かつ生で見る迫力あるスピード感がサイクルロードレースの醍醐味です。

## 富士山サイクルロードレース2024への思い

国内のクリテリウム大会としては、市街地で片側3車線を使う規模の大きいレースです。道

幅が広く、他の国内レースよりも迫力があります。是非とも多くの富士市民の方々に観戦していただきたいです。レバンテフジ静岡は、地元を自転車の聖地としてアピールできるような優勝を目指します。

## レバンテフジ静岡の今後の発展

レバンテフジ静岡は「自転車競技のメジャースポーツ化」「自転車による地域創成」の二つの柱を活動理念としております。

若年層からの選手強化を図っている為、平均年齢が低い事も特徴です。幼児向けのランバイクチャレンジの開催や、下部チームである「YOUTH」「HOPE」(※)での選手育成は、将来地元からワールドクラスの選手を輩出することを目標としています。また、富士市サイクルステーション

## レバンテフジ静岡とは

レバンテフジ静岡は、2020年1月に発足した自転車競技チームです。選手は10名前後で編成され、年間20から30程のレースに出場しております。選手の平均年齢は23歳前後で、国内では若いチームです。2023年にはUCIコンチネンタルチーム(※)に登録されました。

※世界自転車競技連合が認定するチームで、世界で約170のチームが登録されており、日本ではレバンテフジ静岡を含む12チームが登録されている。



## 【富士山サイクルロードレース2024】

- <予選> 2024年3月2日(土)  
富士川滑空場
- <決勝> 2024年3月3日(日)  
青葉通り



詳しくはホームページでご確認ください。

URL: [fcrr.fujicity.jp](http://fcrr.fujicity.jp)

## 「スポンサー募集」

レバンテフジ静岡は、チームの成長と活動を応援いただけるスポンサー企業を広く募集しております。



レバンテフジ静岡  
オフィシャルキャラクター  
「ひゅうた」



## 経済回復に向けた変革への支援を推進 令和6年新年賀詞交歓会を開催

1月12日(金)、当所4階大会議室において賀詞交歓会を開催し、当所役員や来賓約200名が、新たな年の到来を祝いました。



開会前に令和6年能登半島地震で亡くなられた方へ黙祷を捧げるとともに、開会挨拶にて浅見会頭は「被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます、素早い支援と復興が進むことを切に願っています」と述べました。国内経済においては、新型コロナウイルス感染症の5類への移行後、社会経済活動の正常化へ向けた力強い回復を期待する一方で、気候変動やウクライナ・パレスチナ等の戦争に起因する世界的なインフレによる円安やエネルギー・原材料高が中小・小規模企業の業況回復に重くのしかかっていると指摘しました。「コスト上昇に対する適正価格への転嫁や慢性的な人手不足など、経営環境の変化に対応すべく、企業へも様々な変革の波が押し寄せることが予想されます」と述べ、効率化や無駄の排除、環境に配慮した設備の導入やデジタル技術の活用などを掲げ、「新たな市場開拓やビジネスモデルの創出が必要」としました。これらの課題に対し、「富士商工会議所はDXやカーボンニュートラル、SXに向けた



取り組み支援など、様々な事業を進めていく」と表明しました。  
富士市長 小長井義正氏は、自身の今年を象徴する漢字「推」と示しながら、物価高騰下での確実な大規模事業の推進、職員の課題解決能力の向上に加え、「市民・企業・関係団体と連携しながら、富士市を『推し』の対象として応援してもらえるように努めていきたい」と意気込みました。引き続き、静岡県副知事 森貴志氏、衆議院議員 細野豪志氏、富士市議会議員 小池智明氏、静岡県議会議員 早川育子氏が祝辞を述べられました。  
新型コロナウイルス感染症拡大以降、歓談を設けた開催は4年ぶりとなり、出席者は今後の景気や経済の動向、企業活動などについて意見を共有しながら、交流を深めました。

お客様の危機管理と遵法をサポートする...

**サンコー防災株式会社**

本社・本店	〒417-0058	富士市永田北町9-15
	TEL.0545-52-3973	FAX.0545-52-7140
富士宮営業所	〒418-0052	富士宮市淀平町926
静岡支店	〒422-8063	静岡市駿河区馬淵2-4-1
清水営業所	〒424-0006	静岡市清水区石川本町2-7
藤枝営業所	〒426-0044	藤枝市大東町448-1
袋井営業所	〒437-0065	袋井市堀越1130-6 TMビル102
三島支店	〒411-0907	駿東郡清水町伏見269-5
御殿場営業所	〒412-0043	御殿場市新橋926-13
伊豆営業所	〒410-2322	伊豆の国市吉田559-1
松崎事務所	〒410-3624	賀茂郡松崎町江奈277-2

- 建設業許可：静岡県知事 許可 第000314号
- 取扱品目：各種消火設備(消火器、スプリンクラー設備等)  
警報設備(自動火災報知設備、非常警報設備等)  
避難設備(避難器具、誘導灯及び誘導標識等)  
地震対策用品、監視カメラ、インターホン等
- 資格所持者：(正社員)  
消防設備士 甲種(特種12名、1類39名、2類26名、3類26名、4類75名、5類26名)  
消防設備士 乙種(2類1名、4類21名、5類1名、6類69名、7類29名)  
消防設備点検資格者(特種2名、1種64名、2種60名)  
防火対象物点検資格者(43名)、防災管理点検資格者(15名)  
電気工事士(1種3名、2種23名)、防火管理者(甲種3名)  
防火設備検査員資格者(21名)、防犯設備士(3名)  
危険物取扱者 甲種(2名)  
危険物取扱者 乙種(1類4名、2類4名、3類5名、4類18名、5類4名、6類5名)  
危険物取扱者 丙種(1名)  
工事担任者(デジタル第1種2名、DD第1種1名、AI第3種3名)  
配管技能士(2級1名)  
電気工事施工管理技士(1級1名、2級1名)  
建設業経理士(1級2名、2級6名)



※2024年1月現在

## 群馬県太田商工会議所建設工業部会と交流

# 互いの建設業界の現状について 情報交換を行う

去る12月7日、群馬県の太田商工会議所から建設工業部会のメンバー17名が富士を訪れ、当所の建設業部会員と交流を深めました。

今回の交流会は、平成30年に当所と太田商工会議所の間で交わされた「大規模災害発生時の相互応援に関する協定書」の内容に基づいて実施されました。協定には両者が定期的に交流することが盛り込まれており、インフラ復旧等で災害時に果たす役割の大きい建設業界から交流がスタート。令和2年に富士側から往訪、コロナ禍による休止期間を経て、今回太田側からの来訪が実現しました。交流会ではまず、富士の井出建設業部



交流会の様子



太田商工会議所のメンバーは交流会後、「富士川かりがね橋」建設現場を視察

会長が「南海トラフ地震や富士山の噴火など、さまざまな自然災害リスクが指摘される中で、太田商工会議所との交流が始まったことを心強く思う」と挨拶すると、太田の高橋建設工業部会長も「海側と内陸側、異なる会議所同士が連携し、有事の際の協力関係を築いていきたい」と応じました。

その後は、お互いの建設業界の現状に関して情報交換が行われ、それぞれの地域が抱える課題を共有しました。

## 第1回富士市産業経済問題懇話会

# 岳南地域の道路ネットワークと これからの日本の道路施策を聴講

去る令和5年12月13日(水)に開催された第1回富士市産業経済問題懇話会において、静岡国道事務所 柳野和也所長より、富士市の道路ネットワークについてご講話いただきました。



冒頭、浅見会頭の挨拶では、富士商工会議所の重点事業の一つに地域の広域道路の整備推進事業を掲げ、懸念される慢性的な渋滞や災害発生時の対応の遅れを解消するため、バランスの取れた道路ネットワークの早期実現を期待する旨を述べられました。

その後、柳野所長からは国道1号バイパスと国道139号を接続する富士改良事業、広見IC交差点の2車線化と延伸計画、富士川かりがね橋の施工状況など、岳南地域の道路ネットワークの状況について説明いただき、引き続き、日本の道路施策にも触れ、持続可能な基盤ネットワークシステムである「ワイズネットワーク」を目指していくと述べられました。

強靱な道路ネットワークの構築は、新時代の課題解決と価値創造に寄与するという内容に参加者一同、大きな期待を寄せていました。